

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 4ヵ月ぶりの消費者マインド改善 (05年6月ミシガン大消費者センチメント)

発表日：05年6月17日(金)

～雇用・所得の拡大や資産の増加が押し上げ～

(No. UI - 053)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

	消費者信頼感指数		雇用判断				半年後の景況感		半年以内の購入計画		ミシガン大学消費マインド		
	期待指数	現状指数	充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅	期待	現状	期待	現状	
04/06	102.8	100.8	105.9	18.3	26.2	23.5	9.1	6.4	3.6	95.6	88.5	106.7	
04/07	105.7	105.3	106.4	19.7	25.7	23.0	7.1	6.8	4.1	96.7	91.2	105.2	
04/08	98.7	97.3	100.7	18.4	26.0	20.2	8.8	6.5	3.9	95.9	88.2	107.9	
04/09	96.7	97.7	95.3	16.6	28.0	21.6	9.4	6.3	3.9	94.2	88.0	103.7	
04/10	92.9	92.2	94.0	17.4	27.9	20.7	10.5	7.6	3.6	91.7	83.8	104.0	
04/11	92.6	90.2	96.3	17.1	28.0	20.3	11.4	4.6	2.6	92.8	85.2	104.7	
04/12	102.7	100.7	105.7	19.4	26.4	22.4	7.7	6.6	3.5	97.1	90.9	106.7	
05/01	105.1	100.4	112.1	21.0	24.3	22.0	7.8	7.2	3.5	95.5	85.7	110.9	
05/02	104.4	96.1	116.8	21.1	22.4	17.9	7.8	7.2	4.1	94.1	84.4	109.2	
05/03	103.0	93.7	117.0	21.8	23.8	19.3	8.2	5.7	3.8	92.6	82.8	108.0	
05/04	97.5	86.7	113.8	20.4	22.9	17.7	9.9	5.8	4.1	87.7	77.0	104.4	
05/05	102.2	92.5	116.7	22.6	24.2	18.6	9.5	7.6	3.5	86.9	75.3	104.9	
05/06										94.8	84.8	110.4	

(出所) The Conference Board, University of Michigan

(注) 雇用判断、半年後の景況感、購入計画の単位は%で、全体に占める割合を指す。

前月比7.9ポイント 上昇し市場予想を上 回った

05年6月のミシガン大学消費者センチメント指数(速報値)は、94.8と前月から79ポイント上昇し市場予想の88.8を上回った。現状指数が+5.5ポイント、期待指数は+9.5ポイントの上昇となった。ガソリン価格が上昇に転じたものの、雇用・所得の拡大、資産価格の上昇によって4ヵ月ぶりの改善となった。消費者マインドの上昇率が大きく6月に個人消費が加速していることを示唆している。消費者マインドの改善を受け、市場では個人消費の持続的な拡大、利上げ継続との見方が一段と強まった。

現状・期待が変化した要因をみると、現状判断は雇用・所得の拡大が持続していることや資産価格が上昇していることで改善したと考えられる。一方、期待指数は原油価格が上昇したものの、株価の上昇やグリーンSPANFRB議長が景気の先行きに楽観的な見方を示したことによって消費者の景気の先行きに対する楽観的な見方が強まり上昇したと考えられる。

このように、足下で家計部門の堅調が持続していることを示す指標が発表されているなかで、企業部門では減速、拡大の両方を示す経済指標が発表されており企業部門の底打ちは明確化していない。

6月上旬から中旬に かけての各種消費者 マインド調査は全て 改善

6月の他の消費者マインド調査をみても、TIPP景気楽観指数(6月6日~6月10日調査)が47.2から50.5に上昇、ABC/WaltPost消費者信頼感指数は5月の平均の15.5から6月第1、2週平均で10.5に改善した。このように、各種の消費者マインド調査は軒並み改善しており、個人消費の堅調持続を示唆している。マインド調査期間と同時期(6月上旬)の消費動向を示す統計をみると、週間小売売上高が6月第1、2週と気温の上昇に伴い前週比で拡大しており、個人消費は堅調さを維持している。

原油が最高値を更新するなかでも個人消費が大幅に減速するリスクは小さい

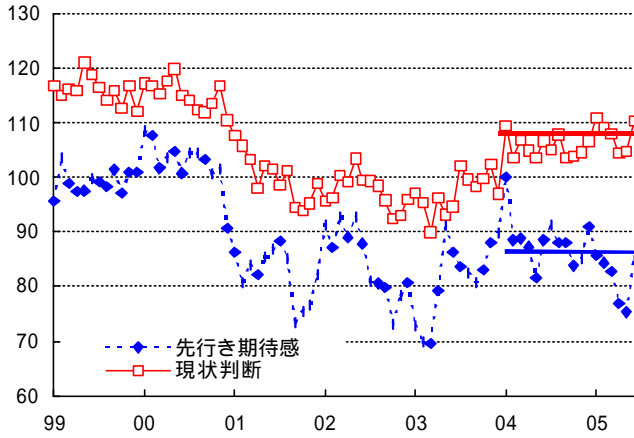
消費者マインドを取巻く環境をみると、足下で原油価格が1バレル=58ドルをつけるなど上昇基調にありガソリン価格も再び上昇している。今後も世界的な景気の拡大ペース加速に伴う供給不足懸念を背景にエネルギー価格の上昇が持続する可能性が高い。エネルギー価格の上昇が続けば、実際に景気に与える影響が小さくとも景気の先行きに対する不安感が強まり今後もマインドを悪化させる可能性がある。

しかし、マインドに与える影響の大きい雇用情勢を考えると、雇用に先行する景気は2003年4～6月期から2005年4～6月期にかけて潜在成長率を上回るペースで拡大しているとみられる。このような環境のもと、マンパワー社による新規雇用計画調査のなかの7～9月期の雇用計画を示す指数(季節調整済み)が前期と変わらず高い水準を維持するなど、企業の採用意欲は強い状態にあり、雇用の拡大が続くと予想される。加えて、雇用環境の改善による賃金上昇や持続的な福利厚生費の増加が見込まれることから、今後も可処分所得は増加傾向を辿る可能性が高い。以上のことから、消費者マインドが急激に悪化し個人消費の失速に繋がるリスクは小さい。

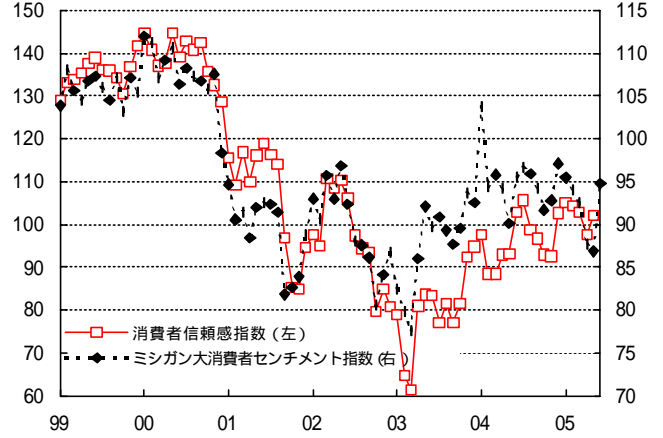
また、住宅販売に関しては、住宅販売に約1ヵ月先行する住宅購入口ーン申請件数は、モーゲージ金利が低下していること、政策金利の引き上げ後も銀行が貸出基準を引き締めていないため資金調達が容易な状況にあることから、4、5、6月と3ヵ月連続で過去最高を更新している。このため、7～9月期にかけて住宅販売は過去最高水準を更新すると予想される。

以上のような家計部門の堅調持続を背景に、企業部門の調整も間もなく終了するとみられ、景況感は今後半には改善すると見込まれる。

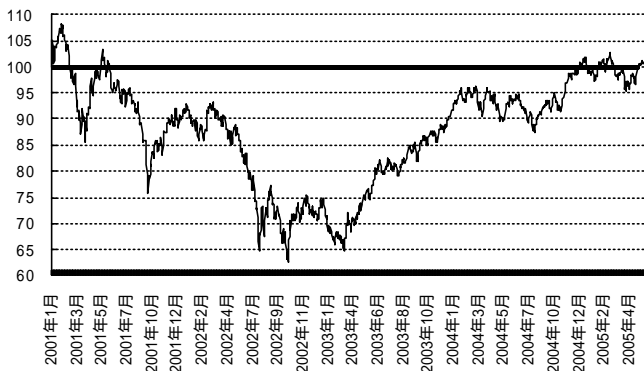
ミシガン大消費者センチメント指数の推移



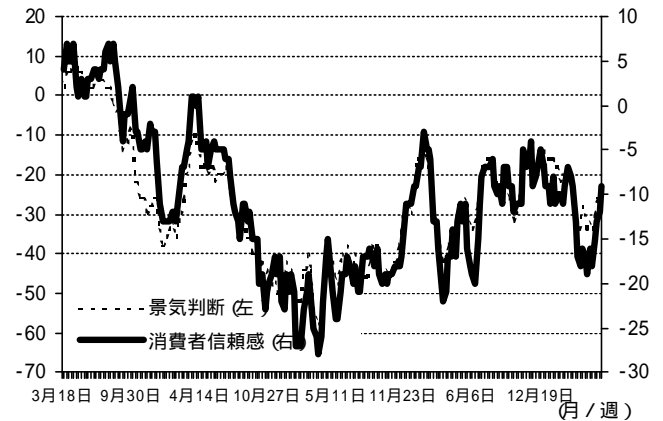
消費者マインドの動向



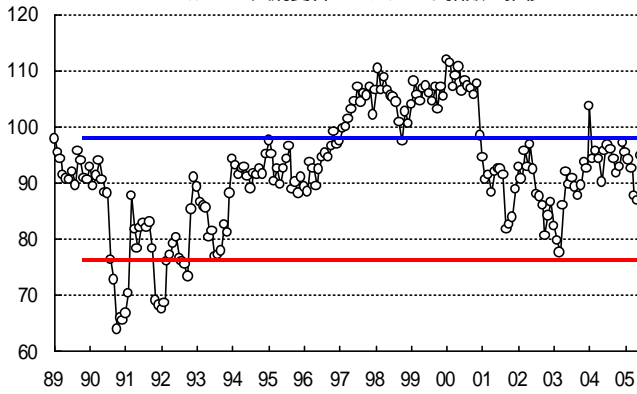
(01年1月 2日=100) ウィルシャー-5000の推移(2001年1月2日～2005年6月16日)



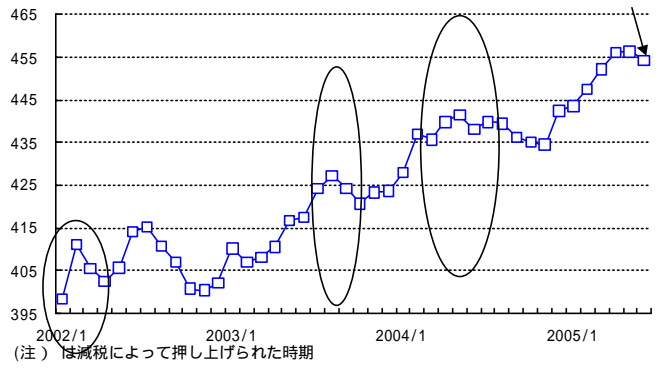
A B C / ワシントンポスト週次消費者信頼感指数構成項目の推移



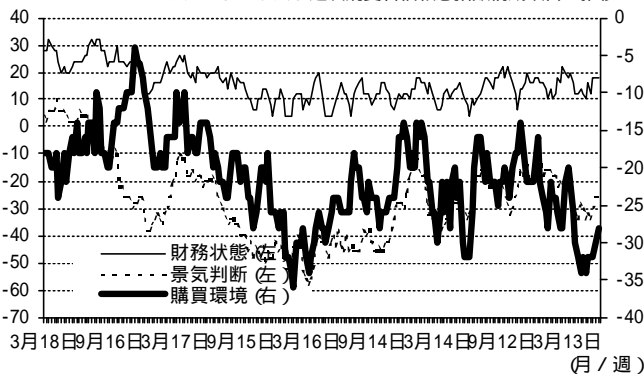
ミシガン大消費者センチメント指数の推移



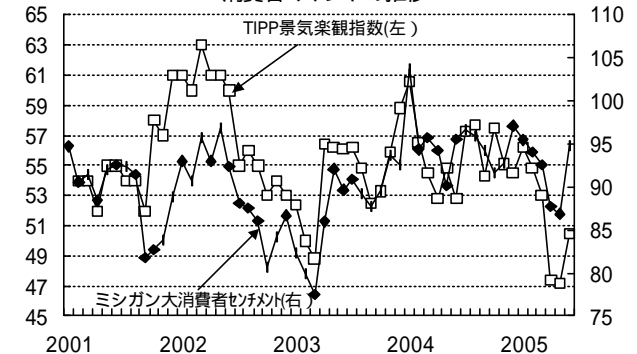
ICSC・UBS小売売上高



A B C / ワシントンポスト週次消費者信頼感指数構成項目の推移



消費者マインドの推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命いしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。